

4. その他（詳細は、[添付資料] P.3「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動：無

新規 ー 社（社名）、除外 ー 社（社名）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用：無

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更：有

② ①以外の変更：無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

23年12月期 2 Q	101,364株	22年12月期	101,334株
23年12月期 2 Q	14株	22年12月期	14株
23年12月期 2 Q	101,337株	22年12月期 2 Q	101,320株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	3
(1) 重要な子会社の異動の概要	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における当社グループの主な事業分野である携帯電話市場においては、国内市場では、国内外のメーカーによるスマートフォンを中心とした新端末の投入が相次ぐ中、携帯電話出荷台数は堅調に推移しております。また、海外市場においても、欧米先進諸国はもとより、エマージングマーケットでもスマートフォンが市場のけん引役となり、携帯電話市場全体が活性化しております。

一方、モバイルコンテンツ市場においては、従来型携帯電話市場が成熟化し、シェアの低下が予測される中、モバイルコンテンツ関連事業者の主戦場はスマートフォンへと移行しつつあります。また、携帯電話向けソーシャルアプリの隆盛は市場の拡大と活性化をもたらす一方で、ソーシャルアプリプロバイダー（SAP）やアプリが乱立し、レッドオーシャン化の様相を呈していることから、今後はSAPやサービスの淘汰・選別が進むものと思われま。加えて、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモが今年冬以降にiモードの課金・認証の仕組みをスマートフォンへ導入すると発表したことで、スマートフォンの普及拡大のみならず公式コンテンツの利用促進にも大きな影響を与えることが予想されます。さらに、国内外におけるスマートフォン戦略強化に向けて、ソーシャルゲームを中心に幅広い年齢層のユーザーを擁するSNS事業者と外部からのコンテンツ調達を志向する携帯電話キャリアとの提携や協力関係構築に向けた動きも活発化しております。

(a) ソフトウェア基盤技術事業

中核事業であるソフトウェア基盤技術事業の売上については、国内市場では、前四半期比で大幅増となり、携帯電話市場全体が堅調に推移するなか、スマートフォン比率の大幅増進に同調する形となりました。特にスマートフォンの中でも大きくシェアを獲得しつつあるAndroid端末向けの「emblend」が順調に出荷を伸ばしており増益に大きく貢献しました。

海外市場においては、APAC地域では、高機能フィーチャーフォンにおいてJBlendが引き続き強い需要を保っております。廉価な携帯電話端末を主力製品として若年層に人気が高い、中国の主要なメーカーのひとつであるOPPO社製端末A209において、MediaTek Inc. のプラットフォーム上では世界初となる、フィーチャーフォン上でスマートフォン同等に複数のアプリを走らせることを可能にするマルチVMとして出荷されました。

さらに、LenovoとHuawei Technologies Co., Ltd.において、世界最大オペレータで6億人加入者を持つチャイナモバイル向けTD-SCDMA端末や、台湾上場企業で、本年度出荷台数5千万台、かつ来年度成長率1.5倍を計画し、現在躍進しているMStar Semiconductor Inc. のプラットフォームにも採用される等、APAC地域における搭載数を順調に伸ばしております。

加えて、中国市場で大躍進しているコンテンツマーケットでの需要に対して、JBlendを使ったセキュアかつ効率的なコンテンツ課金やアイテム課金を可能にする支払いソリューションを、中国最大のオンライン決済会社であるAlipay.com Co., Ltdと共同で展開し始めており、ロイヤリティ収入に加えて新たな売上への貢献が期待されております。

欧米では、M2M市場向けソリューションがスマートグリッド等の市場に向けて始まっており、今後のロイヤリティ売上への貢献が期待されております。

ソフトウェア基盤技術事業の損益面においては、スマートフォン向け、特にAndroid向けの製品が順調に搭載率を上げ、かつそれらの端末の出荷台数も伸びたため、結果として利益率の高い製品売上の比率が上がりました。さらに、外注加工費や販管費の圧縮等も寄与したため、前第2四半期連結会計期間比で増益となりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間のソフトウェア基盤技術事業の業績は、売上高1,695,883千円（前第2四半期連結累計期間2,052,910千円）、営業損失64,537千円（前第2四半期連結累計期間155,584千円）となりました。

(b) コンテンツ・サービス等事業

コンテンツ・サービス等事業の主力事業会社である株式会社ジー・モードが展開する公式コンテンツ配信事業においては、スマートフォンの需要がさらに拡大し厳しい環境が続く中、総合ゲームサイト「テトリス&Getプチアプリ」で展開する「ワンダーファームリゾート ぼくと妖精のしま」等が好調を維持していることに加え、新たに投入した追加課金型コンテンツ「ゴム犬のたまご」が堅調に推移いたしました。また、専門ゲームサイトでは、競走馬育成シミュレーションゲーム「俺の馬」や人気RPG「フライハイトフロンティア」の個別課金等が大きく売上に貢献いたしました。

オープンソーシャル事業においては、事業基盤の拡充に向け、成りあがりシミュレーションゲーム「悪役ごっこ」を新たに投入するとともに、主力コンテンツ「天空のスカイガレオン」のバージョンアップとスマートフォンでの配信を開始いたしました。さらに、公式コンテンツ「俺の馬」との連動イベントを実施し登録会員数の拡充に注力いたしました。

自社ゲームライセンスの許諾やコンテンツ開発受託、オープンプラットフォーム向けコンテンツ配信、一般サイ

ト事業等のその他事業においては、「ドコモマーケット(iモード)」で展開する「TETRIS CRYSTAL(テトリスクリスタル)」等の売上が堅調に推移いたしました。また、新たにニンテンドー3DSダウンロードソフト向けに「ミステリー P.I. ～消えたフィルム～」の提供を開始したほか、ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社との共同制作による「Disney テトリス 1to3」の配信等、新たなサービスに取り組みました。

平成23年3月10日に当社グループの一員となった株式会社アニメインターナショナルカンパニーによるアニメーション制作事業においては、劇場版「それのおとしもの」が完成、上映され人気を博しておりますとともに、7月からTV放映中の、「R-15」「猫神やおよろず」等の制作が予定どおり進捗し、当第2四半期においても売上に貢献しております。

コンテンツ・サービス等事業の損益面においては、オープンソーシャル事業の拡充等により売上原価が増加したものの、公式コンテンツ配信事業やオープンソーシャル事業等の業務効率化の推進により販管費の圧縮が図れました。一方で、アニメーション制作事業の劇場版やTV放映タイトル制作においては、高い集客率確保やTVシリーズ前半での視聴者定着のため高品質の映像を制作しなければならず、制作時点では費用計上が先行する傾向にあります。これにより、当第2四半期連結累計期間においてはコスト増の要因となりましたが、これら劇場版、TV放映タイトルにおいては、当第3四半期連結累計期間以降にDVD販売や商品のロイヤリティ等による売上を見込んでおります。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間のコンテンツ・サービス等事業の業績は、売上高2,796,159千円(前第2四半期連結累計期間2,426,796千円)、営業利益109,851千円(前第2四半期連結累計期間102,313千円)となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は4,492,043千円(前第2四半期累計期間4,479,707千円)となりました。

営業損益につきましては、45,950千円の営業利益(前第2四半期連結累計期間54,154千円の営業損失)となりました。

経常損益につきましては、支払手数料の計上等により、22,409千円の経常利益(前第2四半期連結累計期間61,117千円の経常損失)となりました。

四半期純損益につきましては、少数株主利益の計上等により、160,428千円の四半期純損失(前第2四半期連結累計期間四半期純利益171,161千円)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債、純資産の状況に関する分析)

当社グループの当第2四半期連結会計期間末における総資産につきましては、前連結会計年度末と比較して5,495千円増加し15,359,997千円となりました。これは株式会社アニメインターナショナルカンパニーを新規に連結したこと等により、のれんが861,772千円、仕掛金が374,054千円それぞれ増加し、現金及び預金が606,827千円、有価証券が300,198千円、受取手形及び売掛金が278,220千円それぞれ減少したこと等によるものです。

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して、177,989千円増加し1,650,902千円となりました。これは株式会社アニメインターナショナルカンパニーを新規に連結したこと等により、支払手形及び買掛金が168,660千円、前受金が62,126千円それぞれ増加したこと等によるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末と比較して172,494千円減少し13,709,094千円となりました。これは、主に四半期純損失を160,428千円計上したことに伴い利益剰余金が減少したこと等によるものです。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末における自己資本比率につきましては、前連結会計年度末と比較して1.5ポイント減少し、78.1%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期の業績予想につきましては、当第2四半期累計期間における業績の進捗を勘案し、業績予想を修正しております。詳細は本日公表の「平成23年12月期第2四半期連結累計期間業績と前年同期業績との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、営業利益及び経常利益はそれぞれ1,985千円減少し、税金等調整前四半期純損失は16,084千円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成23年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,687,963	5,294,791
受取手形及び売掛金	1,508,037	1,786,258
有価証券	4,288,652	4,588,851
商品	140,919	137,882
仕掛品	491,594	117,539
その他	419,648	430,341
貸倒引当金	△37,451	△24,481
流動資産合計	11,499,365	12,331,182
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	100,479	106,317
車両運搬具及び工具器具備品（純額）	65,303	59,933
土地	46,000	—
有形固定資産合計	211,783	166,251
無形固定資産		
のれん	937,298	75,526
ソフトウェア	1,514,148	1,692,931
ソフトウェア仮勘定	305,275	182,144
その他	8,931	4,241
無形固定資産合計	2,765,655	1,954,843
投資その他の資産		
投資有価証券	532,498	649,703
その他	350,696	252,521
投資その他の資産合計	883,194	902,225
固定資産合計	3,860,632	3,023,320
資産合計	15,359,997	15,354,502
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	447,872	279,212
1年内返済予定の長期借入金	12,808	—
未払金	317,739	344,458
前受金	527,099	464,972
賞与引当金	75,982	77,350
その他	255,984	304,427
流動負債合計	1,637,487	1,470,421

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成23年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年12月31日)
固定負債		
長期借入金	10,036	—
その他	3,379	2,491
固定負債合計	13,415	2,491
負債合計	1,650,902	1,472,913
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,264,700	13,263,950
資本剰余金	750	—
利益剰余金	△904,012	△743,584
自己株式	△8,714	△8,714
株主資本合計	12,352,723	12,511,652
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△150,946	△52,121
繰延ヘッジ損益	△1,179	—
為替換算調整勘定	△204,061	△242,720
評価・換算差額等合計	△356,187	△294,841
新株予約権	△47,901	—
少数株主持分	1,760,459	1,664,778
純資産合計	13,709,094	13,881,589
負債純資産合計	15,359,997	15,354,502

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)
売上高	4,479,707	4,492,043
売上原価	2,598,536	2,743,037
売上総利益	1,881,170	1,749,005
販売費及び一般管理費	1,935,324	1,703,054
営業利益又は営業損失(△)	△54,154	45,950
営業外収益		
受取利息	19,020	8,569
受取配当金	3,645	3,735
投資事業組合運用益	—	14,865
その他	5,976	3,613
営業外収益合計	28,641	30,782
営業外費用		
支払利息	143	492
投資事業組合運用損	15,114	5,838
支払手数料	—	43,753
為替差損	16,697	3,813
その他	3,648	426
営業外費用合計	35,604	54,324
経常利益又は経常損失(△)	△61,117	22,409
特別利益		
貸倒引当金戻入額	14,061	200
負ののれん発生益	457,670	—
特別利益合計	471,731	200
特別損失		
固定資産除却損	1,635	1,212
合併関連費用	—	9,534
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	14,099
段階取得に係る差損	126,788	—
その他	—	4,521
特別損失合計	128,423	29,367
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	282,190	△6,758
法人税、住民税及び事業税	56,145	45,159
法人税等調整額	2,939	9,217
法人税等合計	59,084	54,377
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	—	△61,135
少数株主利益	51,945	99,293
四半期純利益又は四半期純損失(△)	171,161	△160,428

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。